

## 山古志には千年の歴史があるのだ！

映画評論家 佐藤忠男

2004年10月23日に新潟県中越地方を襲った中越大震災は、その被害の大きさと、それによる住民の苦難については、当時ひとしきりニュースになったので、かなり知られていると思う。しかし、あれから4年あまり、あの被害者たちはどうしているか。(中略)地元の人々との信頼関係が見事に生かされて、この作品は、単なる被害の回復というよりは、千年の伝統を持つ村を新たに再創造しようとする人々の気持ちをその心の内側からくっきりと見つめるような鮮やかな印象を持つ作品になった。

段々畑の田んぼ一枚を老後の仕事場と思ってきた上田照枝さんは、そこに改めて水を引くために重いホースを担いで山の笹の間を歩きまわる。やっと成功したときのその嬉しそうな顔。父が錦鯉づくりの名人だった石原正博さんは会社づとめを辞めて父の跡を継ぐが、分からないことばかり。だから人に助けられることの有難さが身にしみる。畜産をやっていた関親子は地震のときに家の柱などの下敷きになって死んでいった牛たちがあわれでならなかった。だから今度は、そんなことにはならないような新しい設計の牛舎を建てる。

これまでの人生の積み重ねがすっかり無駄になってしまった、というような絶望的な声すらはじめはいくつか聞かれたのに、住民たちはこうして希望を持つ。やはり山古志がいい、ここに住みたい、と住民の多数が戻ってくる。ふるさとへのそのみんなの思いを代表するような、村の鎮守の杜と太鼓と、そして自慢の闘牛のにぎわいが、古くて新しい故郷をよみがえらせる。そう、この山古志には千年の歴史があるのだ！簡単にはへこたれない。そういう住民たちの心意気がくっきりと感じ取れる作品である。

### 感想

素晴らしかった。感動しました。周囲の観客は皆泣いていましたし(小生も：)。

エンディングタイトルで拍手が起き終了直後に再び拍手喝采という映画は小生初めてです。

この映画が10月3日 午後五時五六分、全国各地で一斉に上映されることを期待しています。

また日本だけではなく同様な地震被害に遭っている世界各地で上映されることを希望します。

きっと大きな勇気を与えらると思つし、日本人の素晴らしさを理解してもらえ作品と確信しています。とにかく感動の二時間でした。ありがとうございました。 【六〇代 男性】

映画終了後に拍手がおきました。皆の心に山古志の人々のふるさとへの思い、復興への強い気持ちが映画を通して伝わってきたのだと思いました。

一人でなく村全体で支えあい、先祖の作ってきた村を守ることにする熱意が、牛、ひまわり、米、鯉をとおして強く伝わってきました。村の人々の笑顔が素晴らしかった。 【五〇代 女性】

時間を感じさせない作品でした。人々の笑顔がとても印象的でした。山古志のように地域の人が、みな家族のような関係であるからこそ復興できたのではないかと思います。

ドキュメンタリーの中の人々と一緒に泣き、笑いました。

【三〇代 女性】

